



## 校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥  
令和元年8月30日  
☎55-2260 第5号

### 教育目標

ふるさとに誇りをもち  
夢と希望に満ちた  
心豊かでたくましい児童の育成



## 「温かい言葉をつかうこと」

長い夏休みが終わり、学校に元気な挨拶の声が聞こえる2学期のスタートとなりました。休み中は家族との思い出や地域行事への参加、市内水泳大会への参加など大いに楽しんでいました。特に、6年生は算数チャレンジ大会に参加し気仙沼市・南三陸町の代表として、見事本選に参加する事ができるなど素晴らしい活躍を見せてくれました。保護者地域の皆様のお力添いがあり、有意義な夏休みを過ごすことができました。その他にも、学校では休み中の学習教室にたくさんの子どもたちが参加したり、読書をしたりするなど楽しみながら力をつけた夏休みになったように思います。

さて、昨年からは地域でも元気な挨拶、返事ができる子が多くなってきました。しかし、丁寧な言葉遣いや挨拶となるとまだまだです。人間が集団生活をする上では丁寧な言葉遣いや挨拶が最も基本的なことであり、潤滑油のような役割をする大切なマナーになります。

学校では、「気持ちのよい言葉遣い」や「気持ちのよい挨拶」について、機会があるごとにお話をしています。「おはようございます。ありがとう。失礼します。すみません。さようなら・・・」これらの言葉は普段何気なく使っています。しかし、この短い挨拶がどれほど私たちの心を明るく、気持ちよく、和やかにさせているかということに自覚したいものです。反対に、「うざい。むかつく。うるせー・・・」等の言葉は、言われた相手の心を傷つけ、悲しませたり怒らせたりします。このような言葉が頻りに飛び交う環境は、人の心を荒れさせ、人と人とのつながりを断ち切ってしまう。日常生活の場面で接する人との信頼関係が保てなくなってしまう。

子どもたちが「あたたかい言葉」を使えるようになるためには、まず、大人が見本を示し、手立てを講じる事が何よりも大切です。学校でも、改めて「あたたかい言葉」の大切さを見直し、様々な場面をとらえ、繰り返す、繰り返す、教師から働きかけるようにすることを試みます。家庭・地域でも日常の「あたたかい言葉」の指導をよろしくお願いいたします。

今年の夏休みは、前半は天気も悪く暑い夏休みが来るかと心配しましたが、7月後半からは猛暑でした。学校のプール開放は16日間でしたが、プールの水温も高くなり熱中症が心配されるため時間を切り上げて開放する処置をとるなど学校としても大変な夏休みになりました。今後も暑さが続くことが予想されます。子どもたちの学校での生活リズムを取り戻すとともに、健康・体調管理に十分気をつけていきたいと思っておりますので、ご家庭・地域でのお声かけもよろしくお願いいたします。

## 「渋野スマイル」

夏休み中に話題になった人として、ゴルフの渋野日向子選手がいます。日本勢として42年ぶりに海外メジャーを制した人です。渋野選手の故郷である岡山県では号外が配られたり、AIG 全英女子オープン後の国内女子ツアーの観客が急増するなど、渋野フィーバーが巻き起こっています。

そんな中で、海外で無名だった日本人の優勝を欧米のゴルフメディアでは、彼女のことを次のように受け止めています。

「最終日最終組の優勝争いという極度にプレッシャーがかかる中で、いかに実力を発揮しました。しかもプレーの合間に笑顔絶やさず、ホール間を移動する時は大勢の観客とタッチも交わしていました。プレースタイルだけではなく、あの明るい人柄に、みんなが渋野の虜になりました」

すごいプレッシャーの中で、実力を発揮する為には、いつも笑顔で明るく振る舞うことがとても大切であると感じさせられました。そして何より笑顔は人を引きつける魔法のように感じます。

「渋野スマイル」、多くの人が虜になったのではないのでしょうか。

